

民報あばしり

NO.1056

2016.2.14

発行所

日本共産党
網走市委員会
網走市北八四三
四四三・四四五八
F 四三・四四五七

「戦争法廃止」の願い

2000万署名 現在1660



いま市内で、「戦争法の廃止を求める統一署名」・「戦争させない・9条壊すな！総がかり実行委員会」のすすめる2000万署名運動が、これまでに広がってきています。

「ストップ！戦争法 網走の会」は、5000筆署名を目標に活動しています。日本共産党網走市委員会では「ストップの会」の構成員として3000筆を日本共産党として集めることを決めて、先週で約1600筆まで到達しました。

川向地域に住む鈴木(男性)さんは、「いま共産党が頑張らない」との思いで、知り合いのお店や友人知人に署名用紙を渡し、お願いし500筆近い署名が集まりました。「思想信条・政党の枠を超えて協力してくれまます」と話しています。

市内に住むSさん(女性)は、アベ政権の戦争法に「腹が立つ」と100筆署名を決意。孫を保育園に送り届けた後、朝の冷え込む中、地域でコッコツと署名をお願いし、先週目標達成しました。「反応はいいです」と笑顔で話してくれました。

農村地域に住む方から「集まったので



取りに来て」と連絡があり、5枚に15筆の署名がありました。

様々な活動のドラマが生まれている「戦争法廃止」の署名運動は「野党は一つにまとまって欲しい」の声でもあります。

しんぶん「赤旗」読者のみなさん、署名にご協力をお願いいたします。

街・スポットライト

同じ地震国として心の痛む台湾の地震。しかもとんでもないことに倒壊したビルの柱の中から「あき缶」が出てきました。人の命より優先されるものがあるのでしょうか。

今、市内のあちこちで台湾からの観光客と思われる旅行者を見かけます。海外の旅行者が、もし地震や津波に遭遇した時に網走の街は大丈夫でしょうか。網走には津波時の避難所が51ヶ所あります。



藻琴の避難路

しんぶん 赤旗10日付に、研究開発減税が過去最高の6746億円に達したことが政府の資料で分かったと書いてあります。

減税額が最も多かった企業は1084億円で、企業の収益状況からトヨタ自動車であると推定される。トヨタは、自民党の政治資金団体への献金額が6440万円で、2位はキャノン4000万円です。租税特別措置は特定の政策目的に応じ、対象を限定して税制上の優遇措置を講じるものです。

研究開発減税は、試験研究費の一定割合を法人税額から控除できる制度です。小泉政権時代に大幅に拡充され、安倍政権では13年度に上限を30%から40%に引き上げ、減税額が急増。これほど優遇して、さらに法人税を引き下げる。国民には消費税増税、大企業には大減税、これではアベコベ政治です。

昨年、津波避難路整備事業として2ヶ所が整備されましたが、どんな状態なのか見てきました。

1ヶ所目は、南8条東7丁目と台町2丁目をつなぐ階段は、幅も広く除雪されていきました。2ヶ所目の国道244号線、藻琴跨線橋横手から藻琴神社までの階段は残念ながら道路から積み上がった雪が胸辺りまであり、避難する事ができない「避難路」になっていました。

気になり、外国人観光客が来る北浜の避難場所「白鳥台小学校」近くの瀧沸湖水鳥・湿地センターに行ってみました。しかし、センターには、外国の人にもわかるような避難所、経路図などは備わっていませんでしたが「直接誘導する」との事でした。

流水

「合流注意・逆走注意」
本会議場で自民党席からのヤジがすさまじいのは日常の常なのですが、先日は公明党議員が日本共産党の「学費値上げ」プラスタールについて「事実と違う」などと予算委員会

会で取り上げました。おおさか維新は改憲を安倍首相に呼びかけ、北海道では新党大地が「共産党と共闘できない」と自民党候補を支援。▼二大政党内や第三極の流れは日本共産党を前進させないための「仕掛け」でした。しかし、それらが破たんして日本共産党の議席が増えたなか、昨年は戦争法案の廃案をと市民と野党の共同も広がりました。政府・与党が危機感を覚えたのか、今の国会の動きは「数を頼み」に突破しようとする動きが見えます。▼なりふり構わず多数を獲得しようとする安倍政権のねらいは、年頭から強調してきた憲法を変えることにほかならないでしょう。憲法を壊す安倍政権の勢力か、憲法にもとづく国民と野党の共同か——通常国会で、その姿がハッキリしてきました。▼高速道路に乗ったら見える「合流注意」の看板のごとく安倍政治への危ない合流ですが、加えて憲法破壊という「逆走注意」の看板も見えてきます。衆院道五区補選と参院選は、日本の岐路を問う重要な選挙となります。▼安倍首相の答弁には、ごまかしが見られます。この間の論戦で日本共産党は、その一端を暴いてきました。ぜひとも国会の議論を見てほしい。新しい政治をつくらうと、議員団はみな本気で立ち向かっています。

衆議院議員 畠山和也